

2020年12月期通期決算説明会における主な質疑応答内容
(2021年2月15日開催 於：オンライン)

<自動車事業>

Q：自動車事業の悪化要因は？

A：COVID-19 拡大影響を受け、自動車関連メーカーにおける設備投資が停滞したことが要因である。この停滞からいつ回復するかを予想するのは難しい。

自動車事業は受注から売上までのリードタイムが長いと、上期の受注状況によって売上高予想も変化する。また、利益面では製品の売上構成比の変化、ならびに経費が平常化を織り込んだ結果、減益の予想となっている。

パワートレインの多様化が進むなかで、自動車関連メーカーのどのような要求にも応えられるように体制を整えていくことが重要であると考えている。

Q：燃料電池・水素に関連するビジネスの拡大はどのような方向か？

A：燃料電池に関しては、HORIBA では 1990 年代後半より取り組んでおり、すでに知見がある。また、2018 年に買収したバッテリー試験装置や燃料電池試験装置の開発・製造販売を手がけるホリバ・フューエルコン社では、燃料電池関連のビジネスが伸びており、欧州、中国を中心に今後もさらに事業の拡大を予想している。現在、生産キャパシティを拡大するため、2021 年末の完成予定で同社新工場を建設中である。

Q：バッテリーと燃料電池はどちらが優勢になると考えているか？

A：バッテリーに関しては、科学セグメントを中心に電極素材の分析や触媒の分析などビジネスが拡大している。バッテリーは燃料電池車、ハイブリッド車双方で使われるものであり、どちらが優勢かということはないと考える。

Q：MCT（自動車計測機器）ビジネスのうち、内燃機関開発に関連する案件の割合はどの程度か？

A：電動自動車のカテゴリーに含まれるハイブリッド車は、内燃機関もモーターも使われる。このことから、定量的に切り分けて割合を示すのは難しい。

Q：欧州の排ガス規制「ユーロ 6」の次に導入が検討されている規制により、今後、どの程度の需要を生むと考えているか？

A：欧州の次の排ガス規制は、大変厳しい規制が導入される見込みであるが、そのタイミングは不透明である。自動車の電動化に関する開発が加速するなかで、新たな規制に対して、自動車関連メーカーがどのようなタイミングで、どの程度の規模の投資を始めるかは、現状では見通しにくい。

<半導体事業>

Q：2021年は売上高で前期比7%増を見込んでいるが、半導体市場の成長予想より増収幅が小さくないか？

A：市場サイクルの早い半導体業界では下期まで明確に見込むのは難しい。上期と同程度の需要水準が続くと考え、この予想数値としている。

Q：2021年の地域別売上高予想で、アジアが減収となる理由は？

A：地域別売上高予想は仕向地別で計上しており、2021年は仕向地先がアジアから他の地域へ変更になる可能性がある。半導体事業のビジネス構造が大きく変わるわけではない。

<医用事業>

Q：シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス社（シーメンス社）への製品供給開始、およびMedTest社買収による2021年の収益貢献はどの程度期待できるのか？

A：シーメンス社の血球計数装置ビジネスの大部分が、本年よりHORIBAからの製品・試薬供給に切り替わる。血球計数装置ビジネスは、機器の稼働により消費される試薬の収益貢献が大きく、ただちに収益に結びつかない。MedTest社に関しても、中長期的な成長を見ており、2021年での収益貢献は限定的と考えている。2021年の黒字転換はCOVID-19影響で減少した検査数の回復を主に見込んでいる。

<科学事業>

Q：製薬業界へのビジネス拡大の売上規模はどの程度か？

A：製薬業界向けの売上規模を開示するのは難しい。顧客からの引き合いは着実に増えている。

Q：科学事業の2020年の利益率が非常に高いが、収益構造が変化したのか？

A：光学コンポーネントを中心に、顧客ニーズを捉えた高付加価値なものが成長している。アカデミアなど最先端の研究で使われる計測機器の販売とともに、製品製造プロセスのモニタリングなどに使用される機器の販売増加をめざしている。

<全社>

Q：現状では、半導体事業に依存している事業ポートフォリオになっているが、今後どのようなビジネス構造をめざすのか？

A：足元では半導体事業が業績を支える形になっているが、これは数十年かけて構築してきた5つの事業によるバランス経営が機能してもたらした一時的な結果と考えている。それぞれの事業が補完しあいながら、研究開発を継続的に行い、成長をめざす。

以上